別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画									
事　項		記　入　欄							備　考
計画の区分		学部の学科の設置							
フリガナ 設置者		ガッコウホウジン　ダイジョウシュクトクガクエン 学校法人　大乗淑徳学園							
フリガナ 大学の名称		シュクトクダイガク 淑徳大学　（ Shukutoku University ）							
大学本部の位置		千葉県千葉市中央区大巌寺町200番地							
大学の目的		本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の育成を目的とする。							
新設学部等の目的		人間科学科では、心理・福祉・健康・教育の各領域を横断かつ総合的に学ぶことにより、各領域からの人間への理解を深め、人間のこころと身体の健康に関わる支援や諸課題を実践的に解決するための専門的知識と能力を身に付けた人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次 人	人		年　月 第　年次		
	人文学部 [College of Humanities]							東京都板橋区前野町6丁目36番4号	
	人間科学科 [School of Human Sciences]	4	100	－	400	学士（人間科学） 【Bachelor of Human Sciences】	令和5年4月 第1年次	同上	
	計		100	－	400				
同一設置者内における変更状況 （定員の移行，名称の変更等）		淑徳大学 地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律第13条第1項第1号の適用を受け、淑徳大学人文学部に人間科学科を設置、経営学部の所在地変更及び経営学部経営学科の収容定員増 経営学部の所在地変更及び経営学部経営学科の収容定員増 　経営学部　〔所在地の変更〕 　　変更前：埼玉県入間郡三芳町大字藤久保字南新埜1150番地１ 　　変更後：東京都板橋区前野町6丁目36番4号 　　経営学科〔定員増〕（40） 　　（令和4年3月収容定員に係る認可申請） 　人文学部（所在地：東京都板橋区前野町6丁目36番4号） 　　人間科学科（100） 　　（令和4年3月収容定員に係る認可申請） 地域創生学部　（所在地：埼玉県入間郡三芳町大字藤久保字南新埜1150番地１） 　　地域創生学科（95） 　　（令和4年3月収容定員に係る認可申請） 　　（令和4年4月学部の設置届出）								

	淑徳大学短期大学部(廃止) （所在地：東京都板橋区前野町6丁目36番4号） 健康福祉学科 社会福祉専攻　（廃止）　（△50） 介護福祉専攻　（廃止）　（△40） ※令和5年4月学生募集停止 こども学科　　（廃止）　（△250） ※令和5年4月学生募集停止

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
	人文学部人間科学科	82科目	30科目	5科目	117科目	124単位

教員組織の概要		学部等の名称	専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
	新設分	人文学部　人間科学科	5人 (5)	3人 (3)	0人 (0)	3人 (3)	11人 (11)	0人 (0)	35人 (17)	※令和4年4月設置届出
		地域創生学部　地域創生学科	7 (7)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	12 (12)	0 (0)	16 (6)	
		計	12 (12)	4 (4)	1 (1)	6 (6)	23 (23)	0 (0)	－ (－)	
	既設分	総合福祉学部　社会福祉学科	14 (14)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	17 (17)	0 0	90 (90)	
		教育福祉学科	11 (11)	9 (8)	0 (0)	0 (0)	20 (19)	0 (0)	46 (46)	
		実践心理学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	66 (66)	
		看護栄養学部　看護学科	8 (8)	9 (9)	3 (3)	11 (11)	31 (31)	3 (3)	28 (28)	
		栄養学科	5 (5)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	5 (5)	20 (20)	
		コミュニティ政策学部コミュニティ政策学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	70 (70)	
		経営学部　経営学科	7 (7)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	46 (45)	
		観光経営学科	5 (5)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	8 (8)	0 (0)	30 (30)	
		教育学部　こども教育学科	8 (8)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	51 (51)	
		人文学部　表現学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	29 (29)	
		歴史学科	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	35 (35)	
		計	84 (84)	47 (46)	4 (4)	18 (18)	153 (152)	8 (8)	－ (－)	
		合計	96 (96)	51 (50)	5 (5)	24 (24)	176 (175)	8 (8)	－ (－)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
	事務職員	109人 (109)	129人 (129)	238人 (238)	大学全体
	技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	図書館専門職員	1 (1)	15 (15)	16 (16)	
	その他の職員	0 (0)	65 (64)	65 (64)	
	計	110 (110)	209 (208)	319 (318)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 ・千葉キャンパス 109,182.41㎡ 総合福祉学部、ｺﾐｭﾆﾃｨ政策学部、看護栄養学部専用 内、借用面積：5,896.15㎡ 借用期間：H3.1.1～H54.3.31 ・千葉第二ｷｬﾝﾊﾟｽ 16,774.73㎡ 看護栄養学部専用 内、借用面積：16,774.73㎡ 借用期間：H18.4.1から30年間 ・埼玉キャンパス 54,810.00㎡ 教育学部、地域創生学部専用 ※運動場用地 教育学部、地域創生学部、経営学部、人文学部と共用 ・東京キャンパス 14,500.74㎡ 経営学部、人文学部、淑徳大学短期大学部と令和５年度末まで共用 内、借用面積：2,020.50㎡ 借用期間：H18.4.1から30年間 短期大学設置基準 6,800㎡
	校舎敷地	113,161.02 ㎡	0㎡	0㎡	113,161.02 ㎡	
	運動場用地	82,106.86 ㎡	0㎡	0㎡	82,106.86 ㎡	
	小計	195,267.88 ㎡	0㎡	0㎡	195,267.88 ㎡	
	その他	6,880.96 ㎡	0㎡	0㎡	6,880.96 ㎡	
	合計	202,148.84 ㎡	0㎡	0㎡	202,148.84 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 ・東京キャンパス 淑徳大学短期大学部と令和５年度末まで共用 短期大学設置基準 5,750㎡
	77,864.37㎡ (59,613.29㎡)	0㎡ (13,540.06㎡)	0㎡ (2101.62㎡)	77,864.37㎡ (75,254.97㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体
	112室	63室	28室	21室 （補助職員 0人）	0室 （補助職員 0人）	

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	人文学部人間科学科	11室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕冊	学術雑誌〔うち外国書〕種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共有図書656,103冊 電子ジャーナルは、学部単位での特定不能なため、大学全体の数
	人文学部人間科学科	138,409〔2,215〕 (133,842〔2,207〕)	218〔5〕 (212〔5〕)	12,904〔12,897〕 (12,854〔12,847〕)	2,731 (2,584)	6,984 (6, 984)	55 (55)	
	計	138,409〔2,215〕 (133,842〔2,207〕)	218〔5〕 (212〔5〕)	12,904〔12,897〕 (12,854〔12,847〕)	2,731 (2,584)	6,984 (6, 984)	55 (55)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	大学全体
	6,483.77㎡	912	579,928	

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	大学全体
	5,051.88㎡	テニスコート3面、弓道場、武道場	

経費の見積及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	共同研究費等は、大学全体
経費の見積り	教員１人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	― 千円	― 千円	
	共同研究費等		15,300千円	15,930千円	15,840千円	15,840千円	― 千円	― 千円	
	図書購入費	6,786千円	2,560千円	2,560千円	2,560千円	2,560千円	― 千円	― 千円	図書費には電子ｼﾞｬｰﾅﾙ、ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの整備費（運用ｺｽﾄ含む）を含む
	設備購入費	17,050千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	― 千円	― 千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,400千円	1,200千円	1,200千円	1,200千円	― 千円	― 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等

既設大学等の状況

大学の名称	淑徳大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
総合福祉学部						1.01		千葉県千葉市中央区大巌寺町200番地	
社会福祉学科	4	200	―	800	学士（社会福祉学）	1.01	昭和40年度		
教育福祉学科	4	150	―	600	学士（教育福祉学）	1.00	平成23年度		
実践心理学科	4	100	―	400	学士（心理学）	1.05	平成13年度		
看護栄養学部						0.99		千葉県千葉市中央区仁戸名町673番地	
看護学科	4	100	―	400	学士（看護学）	1.06	平成19年度		
栄養学科	4	80	―	320	学士（栄養学）	0.92	平成24年度		
コミュニティ政策学部						1.12		千葉県千葉市中央区大巌寺町200番地	
コミュニティ政策学科	4	95	―	380	学士（コミュニティ政策学）	1.12	平成22年度		
経営学部						1.04		埼玉県入間郡三芳町字藤久保大字南新埜1150番1	※令和5年度より年次進行で東京都板橋区前野町6丁目36番4号に移転
経営学科	4	110	―	440	学士（経営学）	1.04	平成24年度		
観光経営学科	4	90	―	360	学士（観光経営学）	1.02	平成24年度		
教育学部						0.97		埼玉県入間郡三芳町字藤久保大字南新埜1150番1	
こども教育学科	4	150	―	550	学士（教育学）	0.97	平成25年度		※令和2年度入学定員増（50人）
人文学部						1.07		東京都板橋区前野町6丁目36番4号	
表現学科	4	85	―	340	学士（文学）	1.06	平成26年度		
歴史学科	4	60	―	240	学士（文学）	1.09	平成26年度		

	大学院　社会福祉研究科						0.50		千葉県千葉市中央区大巌寺町200番地	
	社会福祉学専攻 博士前期課程	2	5	—	10	修士 (社会福祉学)	0.33	平成元年度		※令和3年度入学定員減（△10人）
	社会福祉学専攻 博士後期課程	3	3	—	11	博士 (社会福祉学)	0.20	平成7年度		※令和3年度入学定員減（△2人）
	心理学専攻 修士課程	2	15	—	30	修士 (心理学)	0.69	平成15年度		
	大学院　看護学研究科						0.70		千葉県千葉市中央区仁戸名町673番地	
	看護学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士 (看護学)	0.70	平成28年度		
	大　学　の　名　称	淑徳大学短期大学部								
	健康福祉学科						0.86		東京都板橋区前野町6丁目36番4号	※令和5年度より学生募集停止（令和3年7月届出済）
	社会福祉専攻	2	50	—	100	短期大学士 (社会福祉)	1.04	昭和36年度		
	介護福祉専攻	2	40	—	80	短期大学士 (社会福祉)	0.65	平成3年度		
	こども学科	2	250	—	500	短期大学士 (保育・教育)	0.73	平成18年度	東京都板橋区前野町6丁目36番4号	※令和5年度より学生募集停止（令和3年7月届出済）
附属施設の概要		該当なし								

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部人間科学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
基礎教育科目	の学習成力	初年次セミナー（学習の目的と技術）	1前	1				○		5	3		3			集中
		利他共生	1後	1			○			1						
		小計（2科目）	－	2	0	0		－		5	3	0	3	0	0	－
	思考力の養成	情報リテラシー	1前	1				○							兼2	
		データリテラシー	1後	1				○							兼2	
		統計分析法	1後		1			○					1			
		問題解決法	3後	1				○							兼1	
		創造思考法	4後	1				○		5	3		3			
		小計（5科目）	－	4	1	0		－		5	3	0	3	0	兼3	－
	表現力の養成	コミュニケーション英語Ⅰ（基礎）	1前	1				○							兼2	
		コミュニケーション英語Ⅱ（応用）	1後	1				○							兼2	
		コミュニケーション英語Ⅲ（実践）	2前	1				○							兼2	
		コミュニケーション英語Ⅳ（実践）	2後		1			○							兼2	
		表現技法Ⅰ（読解・分析）	1前	1				○							兼2	
		表現技法Ⅱ（作文・論文）	1後	1				○							兼2	
		表現技法Ⅲ（発表・討論）	2前	1				○							兼2	
		表現技法Ⅳ（企画・立案）	2後		1			○							兼2	
		表現技法Ⅴ（プレゼンテーション）	3前		1			○							兼1	
		小計（9科目）	－	6	3	0		－		0	0	0	0	0	兼4	－
	人間力の養成	自己管理と社会規範	1前	1				○							兼1	
		ﾁｰﾑﾜｰｸとﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ	1後	1				○							兼1	
		地域活動と社会貢献	2前	1				○							兼1	
		他者理解と信頼関係	2後	1				○							兼1	
		小計（4科目）	－	4	0	0		－		0	0	0	0	0	兼4	－
	の社会養成力	社会的・職業的自立Ⅰ	2前	1				○							兼1	
		社会的・職業的自立Ⅱ	2後	1				○							兼1	
		小計（2科目）	－	2	0	0		－		0	0	0	0	0	兼1	－
	人間の理解	人間心理と人間行動	1・2・3・4前		1		○						1			
		現代家族と育児介護	2・3・4前		1		○								兼1	
		健康管理と身体活動	1・2・3・4前		1		○				1					
		スポーツと運動科学	1・2・3・4後		1		○				1					
		日本社会と歴史文化	1・2・3・4後		1		○								兼1	
		生命科学と物理化学	2・3・4後		1		○								兼1	
		小計（6科目）	－	0	6	0		－		1	1	0	1	0	兼3	－
	社会の理解	情報社会とデータサイエンス	1・2・3・4前		1		○								兼1	
		法律社会と法律問題	1・2・3・4前		1		○								兼1	
		福祉政策と福祉制度	1・2・3・4後		1		○			1						
		日本国家と政治行政	2・3・4前		1		○								兼1	
		経済構造と経済政策	1・2・3・4後		1		○								兼1	
		現代医療と生命倫理	2・3・4後		1		○			1						
		小計（6科目）	－	0	6	0		－		2	0	0	0	0	兼4	－
	国際の理解	国際社会と国際問題	1・2・3・4前		1		○								兼1	
		世界宗教と民族問題	1・2・3・4後		1		○								兼1	
		世界動向と国際貢献	1・2・3・4前		1		○								兼1	
		国際平和と安全保障	1・2・3・4後		1		○								兼1	
		国際関係と日本外交	2・3・4後		1		○								兼1	
		地球環境と環境対策	2・3・4前		1		○								兼1	
		小計（6科目）	－	0	6	0		－		0	0	0	0	0	兼3	－
	基礎科目	人間科学概論	1前	2			○			3	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		人間行動論	1後	2			○						1			
		小計（2科目）	－	4	0	0		－		3	2	0	1	0	0	－

専門教育科目	基幹科目	心理学概論Ⅰ	1前	2			○					1			
		心理学概論Ⅱ	1後		2		○					1			
		社会福祉概論Ⅰ	1前	2			○			1					
		社会福祉概論Ⅱ	1後		2		○			1					
		健康科学論Ⅰ	1前	2			○			1					
		健康科学論Ⅱ	1後		2		○				1				
		教育学概論Ⅰ	1前	2			○				1				
		教育学概論Ⅱ	1後		2		○							兼1	
		小計（8科目）	－	8	8	0	－			2	2	0	2	0	兼1	－
	展開科目	人間と哲学	1前		2		○								兼1	
		人間と倫理	1後		2		○								兼1	
		人間と思想	2前		2		○								兼1	
		人間と仏教	2後		2		○			1						
		公認心理師の職責	3前		2		○								兼1	
		臨床心理学概論	2後		2		○			1						
		心理学研究法	2前		2		○						1			
		心理学統計法	2前		2		○						1			
		心理学実験	2前		2		○						1			
		心理学基礎実験	2後		2				○				1		兼3	
		心理的アセスメント実習	3前		2				○		1		1		兼2	
		知覚・認知心理学	1後		2		○				1					
		学習・言語心理学	2前		2		○				1					
		感情・人格心理学	2後		2		○			1						
		神経・生理心理学	3前		2		○			1						
		社会・集団・家族心理学	2前		2		○			1						
		発達心理学	1後		2		○			1						
		障害者・障害児心理学	2後		2		○						1			
		心理的アセスメント	2後		2		○				1					
		心理学的支援法	2後		2		○						1			
		健康・医療心理学	1後		2		○			1						
		福祉心理学	3後		2		○						1			
		教育・学校心理学	2前		2		○						1			
		司法・犯罪心理学	3前		2		○			1						
		産業・組織心理学	3後		2		○								兼1	
		人体の構造と機能及び疾病	2後		2		○			1						
		精神疾患とその治療	3後		2		○			1						
		関係行政論	2前		2		○						1			
		心理演習（基礎）	3前		1			○		2	1		2			
		心理演習（応用）	3後		1			○		2	1		2			
		心理実習	4通		2				○	2	1		2			
		スポーツ心理学	2後		2		○								兼1	
		恋愛心理学	3前		2		○								兼1	
		ストレスマネジメント	3後		2		○								兼1	
		心理描写研究	3後		2		○								兼1	
		相談援助論	2前		2		○			1						
		相談援助方法論	2後		2		○			1						
		家族社会論	2後		2		○								兼1	
		地域福祉の理論と方法	2前		2		○			1						
		ジェンダー論	1後		2		○								兼1	
		児童に対する支援	3前		2		○								兼1	
		家庭に対する支援	3後		2		○								兼1	
		高齢者に対する支援	3後		2		○								兼1	
		障害者に対する支援	3前		2		○			1						
		栄養学	1後		2		○								兼1	
		健康と栄養	2前		2		○								兼1	
		スポーツ生理学	2前		2		○				1					
		健康と運動	2後		2		○				1					
		子どもの身体運動と健康	3前		2		○				1					
		高齢者の身体運動と健康	3後		2		○				1					
		スポーツビジネス	3前		2		○								兼1	
		教育哲学	2前		2		○								兼1	
		教育社会学	2前		2		○								兼1	
		教育心理学	2後		2		○						1			
		日本の教育事情	2後		2		○								兼1	
		子どもの生活環境	3後		2		○								兼1	
		子どもの権利擁護	3前		2		○								兼1	
		教育相談	3後		2		○				1					
		小計（58科目）	－	0	114	0	－			5	3	0	3	0	兼14	－

演習科目	人間科学専門演習Ⅰ	1後	1				○		5	3		3			
	人間科学専門演習Ⅱ	2前	1				○		5	3		3			
	人間科学専門演習Ⅲ	2後	1				○		5	3		3			
	人間科学専門演習Ⅳ	3前	1				○		5	3		3			
	人間科学専門演習Ⅴ	3後	1				○		5	3		3			
	人間科学専門演習Ⅵ	4前	1				○		5	3		3			
	人間科学専門演習Ⅶ	4後	1				○		5	3		3			
	小計（7科目）	－	7	0	0	－			5	3	0	3	0	0	－
実践科目	フィールドワークⅠ（事前事後学習を含む）	2通		3				○	1			3			※演習
	フィールドワークⅡ（事前事後学習を含む）	3通		3				○	1			3			※演習
	小計（2科目）	－	0	6	0	－			2	0	0	3	0	0	－
合計（117科目）		－	37	150	0	－			5	3	0	3	0	兼35	－

学位又は称号	学士(人間科学)	学位又は学科の分野	文学関係 教育学・保育学関係 社会学・社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
【卒業要件】 人文学部人間科学科における卒業要件は、学部に４年以上在学し、124単位以上を修得することとする。 【履修方法】 人文学部人間科学科における履修方法は、以下のとおりとする。 1. 基礎教育科目については、必修18単位を含む27単位を修得する。 2. 専門教育科目については、必修19単位を含む91単位を修得する。 3. 基礎教育科目又は専門教育科目の中から、上記118単位を除いた6単位を修得する。 （履修科目の登録の上限：36単位（年間））	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （人文学部人間科学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	学習力の養成	初年次セミナー （学習の目的と技術）	大学教育の目的と意義の理解とともに、４年間の学習計画の立て方や学生生活のあり方について学習する。また、講義ノートのとり方、文献検索や資料収集など図書館の活用方法、専門書などの読み方など、大学での学生の自主的な学習のために必要となる基本的な知識と技能について学習する。さらに、大学生に求められる常識や生活態度及び教職員や仲間と適切な人間関係を築くためのコミュニケーションのあり方について学習する。	
		利他共生	自校教育の中核である本科目を履修することで、受講生が建学の精神である「大乗仏教の利他共生」を正しく理解するとともに、本学で学ぶことの意義や意味を共に考えることを通じて、自らを肯定的に捉えて有意義な学生生活を過ごしていける契機とし、また、将来の目標を明確にしていく事を目的とする。	
	思考力の養成	情報リテラシー	データサイエンスの基礎知識とリテラシーである、文献やデータを読み解き、分析、考察、表現するリテラシーを身につける。専門教育で利用するデータの分析結果の表現や考察に必要な基礎技能を身につけ、日常生活や社会の場で有効に利活用できることを目標とする。授業では、データの分析や考察、表現し読み解くスキルを身につけ、文書処理及び表現ツールを用いた演習を通して、データとツールの利活用を学ぶ。文書処理の知識とスキルの習得を図り、分析や考察のための基礎的な文書表現形式を理解する。	
		データリテラシー	実データとデータ解析ツールを用いた演習を通して、データを読み、処理し、説明するというデータサイエンスの基礎知識と利活用を学ぶ。専門教育で利用する集計や可視化といった基本的なデータ分析の基礎技能を身につけ、日常生活や社会の場で有効に利活用できることを目標とする。授業では、データを分析や考察、表現し読み解くスキルを身につけ、表計算の知識とスキルの習得を図り、その可視化のための図表表現を理解するなど、データを扱うための力を身に付ける。	
		統計分析法	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な情報処理能力を身に付けることを目的として、統計資料に基づくデータ分析は、現象を理解するための有益な手段であることについて理解するとともに、具体的な統計資料による統計データの見方や要約方法、分析方法、活用方法などの基本的な知識と技能について学習する。	
		問題解決法	主体的に問題を発見し、問題解決に必要な情報を収集、分析、整理し、問題解決にむけた方法の検討と選択することができる能力を身に付けることを目的とする。現代社会における重要な特定の主題や現代社会が直面する諸課題に関するテーマを取り上げて考察することにより、問題の発見方法と対策の設定方法について学習するとともに、情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現するための基礎的な知識と技能について学習する。	
		創造思考法	これまでに獲得した知識、技能、態度などを総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる総合的な実践能力を養成することを目的とする。各自の学習課題に即した学習計画を設定し、資料収集や分析、報告、意見交換などを繰り返しながら、自己の考えを展開することについて学習するとともに、課題学習による報告書の作成を通して、卒業後も自律・自立して学習できる態度を身に付ける。	

表現力の養成	コミュニケーション英語Ⅰ（基礎）	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な英語の運用能力を身に付けることを目的として、英語能力の習熟度別、達成度別による少人数のクラスを編成し、クラス別に準備されたプログラムにより、英語による日常的な英会話を中心とする基礎的なコミュニケーション能力の習得を図る。	
	コミュニケーション英語Ⅱ（応用）	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な英語の運用能力を身に付けることを目的として、コミュニケーション英語Ⅰ（基礎）の授業内容を踏まえ、英語能力の習熟度別、達成度別による少人数のクラスを編成し、クラス別に準備されたプログラムにより、日常的な英会話を中心とする応用的なコミュニケーション能力の習得を図る。	
	コミュニケーション英語Ⅲ（実践）	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な英語の運用能力を身に付けることを目的として、コミュニケーション英語Ⅱ（応用）の授業内容を踏まえ、英語能力の習熟度別、達成度別による少人数のクラスを編成し、クラス別に準備されたプログラムにより、日常的な英会話を中心とする実践的なコミュニケーション能力の習得を図る。	
	コミュニケーション英語Ⅳ（実践）	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な英語の運用能力を身に付けることを目的として、コミュニケーション英語Ⅱ（応用）の授業内容を踏まえ、英語能力の習熟度別、達成度別による少人数のクラスを編成し、クラス別に準備されたプログラムにより、口頭表現、文章表現、ディスカッション、ディベートなどの実践的な英語運用能力の習得を図る。	
	表現技法Ⅰ（読解・分析）	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な日本語の運用能力を身に付けることを目的として、日本語による文章の読解と分析に関する基本的な能力を養成することから、新聞記事などの朗読を通じて、効果的な朗読法について学習するとともに、情報の客観的な事実を整理し、整理した情報を分析するための方法論について学ぶ。	
	表現技法Ⅱ（作文・論文）	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な日本語の運用能力を身に付けることを目的として、日本語による作文や論文などの文章作成に関する基本的な能力を養成することから、良い文章を書くための基本的な技術やルールを学ぶとともに、文章を書く際の着想力や発想力、文章の構成に要求される表現技術について学習する。	
	表現技法Ⅲ（発表・討論）	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な日本語の運用能力を身に付けることを目的として、日本語による発表や討論のための基本的な方法論を習得することから、発生や発音の訓練を通して、実践的なスピーチ能力を高めるとともに、的確な意見の述べ方や議論の進め方、論理的思考、客観的思考などについて学習する。	
	表現技法Ⅳ（企画・立案）	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な日本語の運用能力を身に付けることを目的として、企画や立案のための基本的な知識と能力について学習するとともに、企画書の事例研究を通して、独創的な視点や発想能力を高めるとともに、実践的な企画能力や立案能力を向上するための構成と制作技術について学習する。	
	表現技法Ⅴ（プレゼンテーション）	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な日本語の運用能力を身に付けることを目的として、プレゼンテーションに関する基礎的な知識と技能について学習するとともに、説得力や自己表現力を高め、日常生活やビジネスなどにおけるプレゼンテーションの際の留意点と効果的なプレゼンテーション技法について学習する。	

人間力の養成	自己管理と社会規範	日々の生活全般にわたって、自らを律した行動ができるとともに、様々な生活場面における善悪や正誤を判断するための基準としての社会的規範やモラルを有して、自己の良心及び社会的規範や社会的ルールに従った行動ができることを目的とする。人間と人間の間での共存のための社会的規範や原理についての理解と社会的規範としての道徳の本質についての理解を深めるとともに、道徳の意義や人間存在の基盤となる人生観や世界観について、日常的な生活場面を通じて、体験的に理解する。	
	チームワークとリーダーシップ	他者と協調・協働して行動することができる資質や他者に方向性を示し、目標を達成するために動員できる能力を養成するとともに、自ら目的を設定し確実に行動する態度や物事に進んで取り組む姿勢を涵養することを目的とする。集団に属しているメンバーが同じ目標を達成するために行う作業、協力、意識、行動について、体験学習を通じて理解を深めるとともに、主体的な判断や行動と目的や方向に向かって他者を教え導くための知識や多くの人々をまとめて率いるための方法論について実践的に学習する。	
	地域活動と社会貢献	社会の一員としての意識を持ち、社会の発展のために積極的に関与できる態度を養うことを目的として、社会貢献の基本的意義と地域活動の社会的役割について理解する。具体的には、社会貢献の意義と役割についての理解のうえに、地域活動の現状と課題について認識したうえで、ボランティア等の地域活動を通して、体験的に学習させることにより、地域活動に対する理解を深めるとともに、社会貢献と地域活動との関連について学習することにより、地域貢献への参画意思を高める。	
	他者理解と信頼関係	自己や自我の認識、自己と他者との関係、他者相互間の関係などの理解と人間関係の多様なあり方について理解を深めるとともに、他者との円滑な信頼関係の構築に積極的に取り組むことができる姿勢を養うことを目的とする。集団や組織の場あるいは個人的な場における感情的な面も含めた人間と人間の関係について学習するとともに、他者を理解する視点について掘り下げて考察する。また、互いに相手のことを思い自由にコミュニケーションできる関係とその関係を築く上で重要となる要素について学習する。	
社会力の養成	社会的・職業的自立Ⅰ	学生が将来への目的意識を明確に持てるよう、職業観を涵養し、職業に関する知識・技能を身に付けさせ、自己の個性を理解した上で主体的に進路を選択できる能力及び卒業後も自律・自立して学習できる態度を育成する。職業現場見学を通して、働く意味や職業に対する意識・動機付けと興味・関心の醸成を図るとともに、卒業生や外部講師による職業体験談を通じて、勤労観や職業観を養成する。また、自分の個性や性格を理解するための自己分析と職業選択の考え方や進め方について学習する。	
	社会的・職業的自立Ⅱ	学生が将来への目的意識を明確に持てるよう、職業観を涵養し、職業に関する知識・技能を身に付けさせ、自己の個性を理解した上で主体的に進路を選択できる能力及び卒業後も自律・自立して学習できる態度を育成する。外部講師による業界・業種・職種などの企業研究や企業が求める人材像、企業の仕組みなど職業理解を図るとともに、ビジネスマナーをはじめとするオフィスワークに関する知識の習得を図る。また、生涯学習の観点から目標設定や目標達成のための考え方について考察する。	
	人間心理と人間行動	ライフステージごとの心理の発達過程について理解したうえで、ストレスや心理的不適合などの心理状況が与える人間行動への影響について解説する。また、人間心理の発達について、発達段階区分のとらえ方と特徴について概説したうえで、日常生活の中から心理状況に影響を与える事柄を取り上げて考察することにより、人間心理の諸局面が影響を与える人間行動の特徴について理解するとともに、精神心理的な相談援助について考える。	

	人間の理解	現代家族と育児介護	高齢化社会の進展に伴う核家族化や単身世帯の増加など現代社会が抱える問題点や課題点についての認識を深めるとともに、現代家族の機能や役割と家族制度や家族関係をめぐる諸問題について考える。また、現代社会における子育て不安や児童虐待などの育児問題と育児制度のあり方について考察するとともに、介護問題の多様性と介護の重要性や家族介護のあり方について考える。	
		健康管理と身体活動	健康と疾病の連続性について理解したうえで、我々が何気なく過ごす日常生活における食欲、睡眠 生体リズム、ストレス現象等の生体現象を取り上げ、それらが如何に合目的な現象であるかについて理解する。また、身体活動や運動がメンタルヘルスや生活の質の改善、健康の維持・増進、疾病の予防等に効果をもたらしているかにについて理解するとともに、生活習慣予防やストレス解消のための基本的な知識と技能について学習する。	
		スポーツと運動科学	自己や他者が他者科学的な根拠をふまえた健康づくりや体力増進についてどのように実現できるかを考え、具体的な行動ができることを目的とし、身体の基礎知識として解剖学やトレーニング理論、身体の仕組みについて理解する。また運動を続けるために、コンディショニング、栄養、スポーツ心理に関する基礎的な知識と技能について学習する。	
		日本社会と歴史文化	日本古来の伝統や習慣を歴史や文化の変遷と関連付けて理解し、他者に対して発信できる知識や態度を身に付けることを目的とする。日本や地域の伝統的な宗教や行事、生活や伝承、芸道や芸能、芸術や音楽などを体験的に学習することにより、郷土文化や生活文化の諸相について理解するとともに、国家や象徴、精神などの生活様式の題材を調査・分析することで、伝統継承や文化振興に貢献する態度を養う。	
		生命科学と物理化学	自然科学的な見方や考え方、事物や現象に対する探究心を高めることを目的として、生物の世界の成り立ちと、生命活動を支える仕組みを日常生活に関わりのある生物科学上の題材を取り上げて考察する。また、電化製品や自動車など身近な物品に使用されている化学製品や化学反応と身の回りで起きている化学的な現象について考究するとともに、物理的な事物や現象についての観察や実験を通して、物理の概念と原理や法則を理解する。	
	社会の理解	情報社会とデータサイエンス	データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解し、データ・AI利活用の最新動向を学ぶ。例えば、研究開発、医療、介護、環境といった各領域における事例を通して、社会で活用されているデータと、そのデータを処理するAIといった技術の利活用領域が広がりや、技術を用いて日常生活や社会の課題解決が行われていることを知る。データやAIは万能ではなく、その利活用において個人情報保護や情報セキュリティ、データ保護といった留意事項を知る。	
		法律社会と法律問題	社会を形成する一員としての責任と義務を理解し、社会を形成・維持するために必要となる法律や規範、契約などの目的や意義について理解するとともに、裁判員制度や生命医療などの身近な法律問題を取り上げて考察することで、法律社会への興味と関心を喚起する。また、日本国憲法における基本的人権の尊重、国民主権、天皇の地位と役割、国会・内閣・裁判所等の政治機構など、日本国憲法の特質について理解を深める。	
		福祉政策と福祉制度	現代社会における福祉政策や福祉制度に関する理解と社会福祉の現状と課題についての認識を深めることを目的とする。生活困窮者、老人、児童、身体障害者等の社会的弱者に対する保護や援助など福祉問題に対する国や地方が行う福祉政策に関する具体的な事例を取り上げて考察し、福祉政策の果たす役割と今後の方向性について考えるとともに、生活水準の向上に向けた社会保障制度や社会保障サービスのあり方について考察する。	

		日本国家と政治行政	日本の政治の現状と課題について認識することを目的として、現代国家の成立と政府や政治の仕組みについて理解したうえで、政党政治や選挙制度、政治献金などの政治に関する諸問題を取り上げて考察することで、政治社会に対する興味と関心を喚起する。また、政治と行政の関係や行政が果たす役割と機能についての理解を深めることを目的として、国や地方の行政機関や行政制度、行政改革に関する諸課題について考察する。	
		経済構造と経済政策	社会的に重要な経済に関する主題や現代社会が直面する経済的な諸課題に関する知識と総合的に判断し対処する能力を養うことを目的とする。現代経済の基本的な概念と枠組みについて理解したうえで、経済問題や財政課題の多様性を認識し、経済的な見方や捉え方、考え方を身に付けるとともに、現代社会における経済構造と経済政策との関連性について理解することにより、現実の経済活動や経済現象に対する興味と関心を深める。	
		現代医療と生命倫理	人口構造の高齢化による生活習慣病や退行性疾患の増加への対応をはじめ、先進医療の普及、終末期医療の充実、在宅医療・在宅ケアの推進など、現代医療の特徴や現状と課題について考察することにより、医療の将来展望について考える。また、生命に関わる倫理原則について解説するとともに、現代の生命倫理に関する諸問題について、臓器移植などの事例を取り上げて考察することで、命に対する多様な価値観や考え方について学習する。	
	国際の理解	国際社会と国際問題	国際社会で生じている諸問題に対する認識と現代社会における国際事情を、我が国だけからの視点にとどまらずグローバルな視野で把握し、解決する志向性を身に付けることを目的とした国際理解総論として位置づける。国際的問題としては、宗教・民族対立、国際政治、地球環境保全等数多岐にわたるが、こうした課題に取り組む基本的な態度・姿勢・視点を身につけ、地球市民としてグローカルとグローバルのバランス感覚を養う。	
		世界宗教と民族問題	思想の内容や特質について、思想史的な観点から考察するとともに、他民族国家内における民族間の利害問題、少数民族の問題、先住民族の既得権の問題など、民族にまつわる諸問題について考察する。また、世界三大宗教と特定の国や民族で信仰されている民族宗教や新興宗教について概観し、異なる宗教間や宗派の対立などの宗教問題について考察することで、世界の諸地域に暮らす民族集団や宗教社会に対する理解を深める。	
		世界動向と国際貢献	国際社会で生じている諸問題に対する認識と現代社会における国際事情や動向、さらには、国際協力機関やODA、NGO等の活動についての理解を深めることにより、国際協調に貢献できる幅広い視野を身に付けることを目的とする。 国際紛争や難民発生、自然災害、環境破壊、食糧危機など国際社会で生じている諸問題の現状と背景について認識と国際協力機関などの活動について理解を深め、国際貢献のための自らの日常生活の改善や工夫、活動の在り方について考える。	
		国際平和と安全保障	国際社会で生じている紛争やテロ問題について考察するとともに、核軍縮、核実験、核保有国、核兵器、核戦争などの核兵器問題と核拡散防止条約や核兵器禁止条約、部分的・包括的核実験禁止条約などの関連条約について学習する。また、安全保障と自衛権について考えるとともに、第一次・第二次世界大戦や原子爆弾と被爆者など、戦争や戦災についての考察を通して、世界と日本の平和問題についての理解を深める。	

		国際関係と日本外交	アジア・大洋州、北米、中南米、欧州、ロシア、中東、アフリカなど地域別に見た外交及び国際社会の平和と安定に向けた取組や地球規模の課題への取組、経済外交、日本への理解と信頼の促進に向けた取組など分野別に見た外交についての考察を通して、国際環境の変動や情勢認識と日本外交の展開について理解する。また、日本と韓国、中国、北朝鮮との関係や領土問題を取り上げながら隣接国との外交問題について考える。	
		地球環境と環境対策	大気汚染・水質汚濁・森林破壊・異常気象・自然災害・自然保護等の自然環境、公害問題・騒音問題・廃棄物処理・二酸化炭素削減等の社会環境、持続可能社会・循環型社会・環境共生都市等の都市環境など、地球規模で生じている様々な環境現象の題材を取り上げて考察することで、環境に対する探究心を高めるとともに、環境劣化・環境汚染・環境破壊・環境攪乱などの課題認識と環境問題や環境対策に関する理解を深める。	
	基礎科目	人間科学概論	（概要）人間科学に初めて触れる初学者を主たる対象とした、人間科学の広範な領域の概要を知るための入門科目である。この授業では人間科学科で学習する主要な学習領域を「心理」「福祉」「健康」「教育」の4つのカテゴリーに分け、各分野についてその概要を学習する。 （オムニバス方式／全15回） （1　長谷川美貴子/1回） 人間科学概論は、人間科学にとって根源的な問いである「人間とは何か」を追求するために、人間科学における「心理」「福祉」「健康」「教育」といった4つの学問領域の概要を横断的に理解するための入門科目となる。当科目は人間という複雑で捉えきれない存在への接近を多角的な視点から試みるための導入部分であり、5名の教員によるオムニバス方式で進めていく。また当科目は、「心理学概論」「社会福祉概論」「健康科学論」「教育学概論」といった個別専門的学問へと連結していき、人間を取り巻く複合的な現実の問題を捉える観察力、思考力、判断力、アセスメント力、実践的な解決策を導き出す学びへと深めていくための鍵となる科目である。一人ひとりがこれまでに体験した出来事と、4つの学問領域の知識を融合させ、これからの学びを主体的に拡げていくことを目指す。 （2　友田貴子/3回） 人間科学科で学ぶ大きな領域のひとつとして心理学がある。心理学は心の科学と呼ばれることがあるように科学、つまりサイエンスである。科学とは、ある対象について客観的な方法で系統的に研究することを指すが、初学者には心理学は曖昧で捉えどころがなく、非科学的なものと思われがちである。自分の心、他者の心について、日々気にしないで生活することはほとんどないのに、日常においては心を科学的に測定することはほとんどないからであろう。また、高校までには心理学という授業はないというのもひとつの理由であろう。この授業では心理学が科学である所以、つまり心を客観的に捉える方法の基礎について体験的に学習する。 （3　藤森雄介/3回） 「社会福祉」とは、「障害のある人、虐待を受けた児童、認知症のお年寄り」等といった特定の状態の人達だけの為にある制度やサービスではなく、現代社会で生活する私達すべてにとって必要不可欠な仕組みである。そのような考え方に立って、日本国憲法を踏まえつつ、現代日本における社会福祉の定義とは何かについて学ぶ。 （6　中西一弘/3回） 人間科学科での学修内容を明確化し、総合的、学術的な理解に必要な基本的知識を身に着け、人間科学の学びを進めていくためのレディネスを確立する。 本科目はオムニバス形式の授業で、身体、精神、社会的環境などの視点から人間科学について概説する。人間科学科においての学びの指針を明確化する。	オムニバス方式

専門教育科目	基幹科目		（7　常深浩平/3回） 「教育とは何か」という普遍的な問題と合わせて、人間科学科で行われる教育の基本的な考え方を紹介する。自分たち自身が受ける教育の概要と学ぶべき内容の理解を深め、さらに一人ひとりにとって必要な学びを意識することで、4年間の学生生活を有意義に送るための素地を育む。 （1　長谷川美貴子/2回） 人間科学における4つの学問領域の概要を学び、個々の側面から人間についての考えを深めてきた。それらの知識をばらばらなままではなく統合することによって、はじめて科学的な新しい人間観を発見し、私たちの現実的な生活をさらに充実させていくことができる。ここでは、今までの学びを統合するために「共生」というキーワードで改めて4領域の捉え直しをしていく。自分という人間を理解するためには他者とのやりとりを通して、はじめて出会う自分もいて、またはじめて他者を理解することも可能となる。お互いにお互いを認め合い共に生きることを見つめ続けることで、「自分が自分らしく生きる」という人間の尊厳についても、自分自身で考えていくことができよう。人間という最も身近で最も未知なる存在について学ぶ人間科学において最も重要なことは、人間の可能性を信じ続けることであり、当科目はその基盤を構築するためのものである。	
		人間行動論	ヒトは動物の一種であり、ヒトの身体的形質は進化の過程を経て獲得されてきた。人間の心理的なメカニズムの基盤となる脳もまた身体的形質の一部であることから考えれば、人間の心の仕組みが進化の過程の中で形作られてきたと考える進化心理学や、適応論的アプローチに基づいて人間の行動や心を理解することは、人間についての理解をより深めることにつながるだろう。本講義では私たち人間の行動を進化、適応、社会環境との相互作用という観点から理解することを目標として、人間の行動やその背景にある心の仕組みを他の動物種と連続性を持つものとして捉え、他種との共通性および人間の独自性について考察しながら、人間行動、心の仕組みに関するさまざまなトピックを学習していく。リアクションペーパーなどを活用し、双方向型の授業を行う。	
		心理学概論Ⅰ	心理学の歴史、心理学以外の学問との異同、心理学の研究法について学び、心理学がどのように、人間の行動や心を捉えようとするのかを理解することが本講義の目標である。人間の行動・心について迫る他の学問（哲学、経済学、社会学、脳科学など）と心理学の共通性及び差異、心理学の歴史、科学としての心理学、心理学の中のさまざまな立場（心の捉え方）、研究法、測定などについて学習し、心理学という学問の全体像を把握する。リアクションペーパーなどを活用しながら、双方向型の授業を行う。	
		心理学概論Ⅱ	心理学は大きく基礎心理学と応用心理学に分類することができ、各分類の研究対象および応用範囲は多岐にわたる。本講義では、まず心理学の諸領域（発達、認知、言語、社会、文化、教育、犯罪、適応、個人等）の基本的な知識、理論について概説を行い、広範な心理学の領域を把握する。また、これらの学びを通して、現代までの心理学の発展について理解を深める。その後、今後の社会において、心理学の研究、応用の可能性が示されている新たな領域について解説を行う。	
		社会福祉概論Ⅰ	現代社会における社会福祉の理念と意義および関連する専門用語の基本的理解について、その歴史的展開過程も踏まえて理解する。具体的には①世界における社会福祉の定義。②社会福祉を考える上で欠かせない専門用語、理念、思想等の理解、③社会保障の基本的な理解とその歴史的な背景、④日本の社会福祉の制度体系の全体像を歴史的経緯を踏まえつつ把握するとともに、その社会的、経済的、政治的な意味を読み取る。	

		社会福祉概論Ⅱ	社会福祉を実践していく上で必要不可欠な「対人援助」の技術について、その体系及び歴史的背景を理解するとともに、現代日本の社会福祉が関与すべき社会問題(少子高齢社会と多死社会、介護・福祉の担い手不足と移住労働、災害支援と地域社会、格差社会と貧困等)の諸相を取り上げて、その現状と課題の理解を通じて、「社会福祉」の今後の在り方を考えていく機会とする。	
		健康科学論Ⅰ	健康科学論は、人間がよりよく生きる、よりよく生活する、よりよい人生を送るために、最も影響を及ぼしうる「健康」について、さまざまな角度から学び、「健康に生きる」とはどういうことなのかを、一人ひとりが考え行動する力を育むことを目的とする。健康科学論Ⅰでは健康概念や健康観の変遷といった健康を考える上で基盤となる考え方や、制度、環境、人々の生き方といった人文社会科学的な視点から健康についてアプローチし、健康科学論Ⅱでは身体の構造や機能、健康づくりといった生物医学的な視点からアプローチしていく。 当科目では、人間を取り囲む現代の諸状況（グローバリゼーションの加速、健康の社会格差、性・エスニシティ・障害などのマイノリティに対する社会的排除、自然災害の脅威、超情報社会）によって、われわれの健康がどのように影響を受けているのかを理解し、そうした状況においても健康に生きていくための方向性を見出していく。	
		健康科学論Ⅱ	「健康科学論Ⅰ」で学習した、基礎的な知識をもとに、自らの健康づくりのための実践能力を培い、他者に対しても健康維持・増進のための指導助言ができる能力を身につける。身体、精神、社会的環境などの視点から、健康にまつわる様々な事例や先行研究等を紹介、さらに、学生自身が論文検索等、主体的な情報アクセスを行い、課題や問題の発見から、解決までのプロセスを実践していく。	
		教育学概論Ⅰ	「教育とは何か」という問題について、大学で学ぶ自分自身を実例として捉えるところから始め、これまでの教育を振り返りながら、自分以外も含めた教育一般に視野を広げ、教育に関する基本的な専門知識を紹介する。さらに人間科学科の特徴である「心理」との関係について自分の心を理解し、他者の心を理解し、人間一般の心を理解することを通して、総合的な心の理解に基づいた建学の精神「利他共生」の実践者となっていく道筋を提示する。	
		教育学概論Ⅱ	教育とは何か？この問いに答えるために、本講義ではまず、教育についての基礎的考察を通して、受講者一人ひとりが自分自身と教育との関わりを認識し、人間にとってのその意味を考えることから始めたい。その上で、学校の存在する意味や意図的な教育プロセスの諸側面を理解することを通して、教師の果たすべき役割について学んでいく。また、教育現場及び教育行政が抱えている問題状況についても適宜取り上げ、受講生とともに考えていきたい。	
	展開科目	人間と哲学	言葉の意味を「真理」という観点から明らかにしようとする真理条件的意味論を取り上げて、指示と量化、時制と様相、命題的態度といった言語哲学上の主要問題を考察する。	
		人間と倫理	「自己と他者の関わり」を中心的なテーマとし、倫理学の基礎となる考え方や現代の倫理をめぐる諸問題について学ぶ。	
		人間と思想	現代の時代状況、およびそこに生きる人間の在り方を探るための思想的な見方・考え方を学ぶ。	

		人間と仏教	そもそも社会福祉の思想や実践の歴史的展開を学ぶにあたっては、「宗教」との関連を抜きに語ることができないことは、洋の東西に関わらない事実である。その前提に立って我が国の社会福祉をその歴史的展開過程から理解しようとするならば、仏教者の関わる福祉実践（いわゆる「仏教福祉」）を学ぶ必要があることに多くの説明を加える必要はないであろう。本科目では、先述の前提に立ち、我が国の社会福祉をその本質から理解していく上で必要不可欠な「仏教福祉」について、具体的には複数の仏教経典を手掛かりとしながら、対人援助の場面で応用可能な知識を学びつつ、「仏教福祉」の基本を正しく理解していく機会とする。	
		公認心理師の職責	この科目では、公認心理師の基本を学習する。 まず、公認心理師の役割、義務、倫理について法的な位置づけを知り、心理支援を必要とする相手への関わり方や、守秘義務及び情報共有の重要性と情報の取扱いについて学ぶ。 次に、公認心理師が働く領域として保健医療や福祉、そして教育やその他の分野を例に挙げ、公認心理師のイメージを持つ。さらに、他職種連携や地域連携、チームや協働について学ぶ。 最後に、専門職としての生涯学習と自己研鑽について学ぶ。	
		臨床心理学概論	臨床心理学は、人間行動がどのように維持発展されるかについて科学的探究にかかわる「科学性」と、人間の不適応や障害、苦悩を生み出す状況を改善し解決していく心理臨床実践にかかわる「実践性」から構成される学問と定義される。「臨床心理学概論」は臨床心理学の入門編であり、「臨床心理学の成り立ち」と「臨床心理学の代表的理論」が主な内容である。前者については、各心理臨床の理論の成り立ちについて扱い、それぞれの理論の背景の理解を深める。後者は今後より深く学んでいくことになるさまざまな心理臨床にかかわる理論を、代表的な心理アセスメントと心理療法をピックアップして紹介していく。	
		心理学研究法	本授業は、心理学における実証的研究法である量的研究および質的研究について、研究の計画から実施までに必要な基礎的知識を身につけることを目的とする。授業では、量的研究や質的研究で用いられる実験法、調査法、検査法、観察法、面接法といった様々な研究方法の概要を解説する。そして、研究における倫理、収集されたデータに対する実証的な考え方までを含めた一連の研究のプロセスについて取りあげる。授業は、アクティブラーニングの手法を活用した講義形式で実施する。	
		心理学統計法	心理学的な研究手法によって得られたデータを適切に読み取り、データに基づいて人間の心理傾向を理解することを目標として、記述統計に関する概念や手法（分布、平均値、分散、標準偏差、クロス集計、散布図など）、推測統計の背景にある考え方（標本と母集団、無作為抽出など）と分析手法（ｔ検定、分散分析、相関分析など）について、統計の考え方を視覚化した資料を使って解説する。	
		心理学実験	心理学的な実験研究を立案・実施するための知識を身に着けることを目指して、心理学実験の背景にある考え方について説明し、複雑な人間の心や行動に対して、実験的手法を用いることの有用性とその限界について解説する。主に認知心理学、社会心理学などの各領域で用いられる実験手法（調整法・極限法・恒常法や行動実験、場面想定法等）について学習する。その上で、得られたデータを分析する方法、明らかになった結果を取りまとめて報告する方法に関する基礎的な知識についても解説する。	

心理学基礎実験	心理学的な実験研究がどのような考え方をもとに計画されているかを理解し、自らが実験者となって実験を遂行すること、かつ得られたデータに基づいて心理学論文の作法に従ったレポートを作成することを目標として、心理学の基礎的な実験のうち認知心理（感覚、学習、記憶）、社会心理（社会的促進、社会的ジレンマなど）領域を中心に取り上げながら学習していく。毎回2時限連続で、実験の実施、実験に関する解説、データ分析、レポートのまとめ方についての確認を行う。レポートは翌週の授業開始前に提出する。	
心理的アセスメント実習	主に心理検査法の実施を通じて、心理的アセスメントを行う場面を想定した実習を行い、その実際を体験・理解する。具体的には、パーソナリティ検査（質問紙法・描画法・投映法）と認知・知能検査を採り上げ、その準備、実施前の関わり、実施の手続き・反応の記録、実施後の関わり、結果の整理、解釈、報告書作成、フィードバックといった一連の流れを体験に、必要なスキルを学ぶ。 その際、心理的アセスメントの目的及び倫理、心理アセスメントの観点及び展開、心理的アセスメントの方法（種類、成り立ち、特徴、意義及び限界）といった内容についても実際的に理解する。	
知覚・認知心理学	本科目は基礎心理学の1つとして、①人の感覚・知覚等の仕組みとその障がい、②人の認知・思考等の仕組みとその障がいについて、基本的な知識や理論を紹介する。具体的には、視覚や聴覚、体性感覚、記憶、注意、思考などを取り上げ、私たちが日々の生活でどのように外界を認識し、内面で考え、実際に行動を選択しているのか、その基礎的な過程を統合的に説明する。さらにその支援方法についても述べる。	
学習・言語心理学	本科目は基礎心理学の1つとして、①人間の行動が変化する過程である「学習」、および②「言語」の習得における仕組みについて、基本的な知識や理論を紹介する。 具体的には、反射、条件づけ、熟達化、洞察、喃語、言語障がい、文章理解などを取り上げる。乳幼児期の発達過程からはじめ、私たちが言葉を含めた能力や技能をどのように学習してきたのかを追いながら、私達の心にとって欠かせない要素である学習と言語の仕組みと支援方法を解説する。	
感情・人格心理学	感情・人格（パーソナリティ）に関する諸理論を通じて、心理学における感情・人格（パーソナリティ）について概説する。感情の理論及び感情喚起のメカニズムでは、感情経験などの感情の基礎、交感神経－副腎髄質系などの感情の生物学的基礎、末梢起源説と中枢起源説などの古典的理論や基本的感情説など感情におけるさまざまな理論、行動経済学などの感情と行動、質問紙法などの感情の測定について学ぶ。感情が行動に及ぼす影響では、援助行動と共感性、感情の制御について理解する。人格（パーソナリティ）の概念及び形成過程では、人格の概念、知的機能の個人差、遺伝と環境など人格の形成と変容について学ぶ。人格の理論では、類型論・特性論・因子論、性格５因子論（ビックファイブ）、人格の障害としてDSMによるパーソナリティ障害について理解を深める。	
神経・生理心理学	「神経・生理心理学」では、視覚、記憶、言語、行為などの重要な心の働きに関係する脳の仕組みについて、脳科学研究の成果に基づいて概説する。さらに、脳梗塞や認知症などの脳障害で起きる高次脳機能障害について、失認、失語、失読、失行、健忘などの神経心理学的な症例を取り上げながら解説する。高次脳機能障害については、その心理学的検査についても触れる。この授業で得られた知識を日常に適応させることができるようになることがこの授業のひとつの目的である。	

		社会・集団・家族心理学	社会・集団では、対人関係並びに集団における人の意識及び行動について概説する。社会的認知では、帰属・ステレオタイプ・偏見などについて学ぶ。社会的自己では、自己意識、自己概念、自尊心、自己呈示・自己開示などを理解する。対人関係・対人行動では、対人魅力、援助・攻撃行動、コミュニケーションでは、言語・非言語などについて学ぶ。集団・組織では、集団への同調、リーダーシップなどについて学ぶ。人の態度及び行動では、態度と行動の一貫性などの態度の機能と行動、送り手の要因など説得による態度と行動の変化について理解する。家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響については、子どもの社会化に関わる機能などの家族の機能、家族システムや夫婦関係・親子関係などの家族内の関係について学び、集団凝集性などの集団・組織の影響、慣習・習慣など文化の影響についても考察する。	
		発達心理学	胎児及び誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達について概説する。出生前期では胎児をとりまく環境、新生児期では反射などの能力、乳児期は信頼や愛着の形成、幼児期は自律や心の理論、児童期は勤勉、青年期は自己の確立、成人期では生殖性、老年期では統合といった発達段階や発達課題について学ぶ。認知機能の発達及び感情・社会性の発達では、視覚・聴覚などの外界認知の発達、言語獲得と語彙習得などの思考とことばの発達、感情の種類や愛着などの感情の発達、親子関係などの対人関係の発達、遺伝と環境などの発達の生物学的基礎について理解する。自己と他者の関係の在り方と心理的発達では、自他の区別などの自己と他者の認知、自己意識などの自己の発達について学ぶ。発達障害等非定型発達については、発達障害等の基礎的な知識及び考え方の理解を深める。高齢者の発達では、心理社会的課題及び必要な支援について考察する。	
		障害者・障害児心理学	本授業は、障害者・障害児について、障害特性や当事者のニーズ、ニーズにあわせた当事者や家族への支援について専門的な知識を身につけることを目的とする。授業では、障害概念の変遷をふまえ、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害の概要を解説する。そして、医療、教育、福祉分野における障害者・障害児の心理社会的課題および必要とされる支援について取りあげる。授業は、アクティブラーニングの手法を活用した講義形式で実施する。	
		心理的アセスメント	心理的アセスメントが心理支援の中にどのように位置づけられているのか、といった心理的アセスメントの概要に関する講義を行ったのちに、心理検査法を中心的に採り上げ、それぞれの理論的実務的ポイントを理解しながら、心理的アセスメントについて学ぶ。 その際、心理的アセスメントの目的及び倫理、心理アセスメントの観点及び展開、心理的アセスメントの方法（種類、成り立ち、特徴、意義及び限界）といった内容について、代表的な心理検査法や心理的アセスメントの概要を通じて学ぶ。	
		心理学的支援法	今日、心理職が求められる心理学的支援の全体像を理解することを目的とする。そのために、まずは、心理支援につながる基本的なコミュニケーション方法について学び、代表的な心理療法（その歴史、概念、意義、適応及び限界）を扱うことで心理職の専門的な観点や関わり方を理解する。その上で、地域支援や連携・支援者支援といったより協働的支援の側面、心の健康教育などのより広い目的や対象への支援の側面について学ぶ。加えて、プライバシーへの配慮といった心理支援における代表的な倫理事項についても扱う。	

健康・医療心理学	公認心理師が担当する５分野のなかでも「保健医療」分野はとくに重要である。実際、公認心理師カリキュラムでは医療分野での実習が必須である。「健康・医療心理学」は実践心理学として正確な知識と安全な技能を身につけるために重要な科目のひとつである。本授業ではストレスの発生機序やストレス・マネジメントについて、精神科、心療内科、小児科・周産期領域、緩和医療など医療・保健各分野での支援の実際、サイコロジカル・ファースト・エイドなど災害時に必要な心理支援、多職種連携・医療連携などについて扱っていく。	
福祉心理学	本授業は、心理職として社会福祉領域で活動する際に必要となる社会福祉の基本的知識、支援に関する専門的な知識を身につけることを目的とする。授業では、社会福祉の理念、歴史と動向、多職種連携において重要となる福祉関連の職種や法・制度を解説する。そして、虐待や認知症などの基本的知識をふまえたうえで、児童・家庭福祉、高齢者福祉、障害者福祉などの福祉領域におけるアセスメントや支援について心理的立場から取りあげる。授業は、アクティブラーニングの手法を活用した講義形式で実施する。	
教育・学校心理学	本講義では、学校現場で対応が求められている不登校、いじめ、非行、虐待などの諸問題に対する理解を深め、支援方法を学ぶことを目的とする．講義の前半では、これらに問題・課題に対する理解を深めるために、まず背景となる子どもの発達、学習および学校教育の制度、環境について解説を行う。後半では、前半の講義で得られた知識をもとに、諸問題およびケースへのアセスメント、援助方法（個別的対応・組織的対応）についてスクールカウンセリングの視点から解説、体験学習（ロールプレイ等）を行う。	
司法・犯罪心理学	犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について概説する。司法・犯罪分野における制度や法では刑法・少年法等、職種では家庭裁判所調査官等について理解する。司法・犯罪分野の活動や倫理では個人情報と守秘義務等について学ぶ。司法・犯罪にかかわる各機関における活動では、科学警察研究所などの警察、家庭裁判所、少年鑑別所、刑務所、児童相談所などの役割を理解する。犯罪・非行の原因と支援では、犯罪原因論について理解し、矯正・更生とプログラム等について考察する。犯罪被害への支援では、司法面接やカウンセリング等について学ぶ。司法・犯罪分野における心理学的アセスメントでは、再犯のリスク評価、プロファイリングやポリグラフ検査等、司法・犯罪分野における心理学的援助では処遇プログラムなど、法と心理学では裁判心理学等についての理解を深める。	
産業・組織心理学	産業・組織心理学は、人が働くことを通じて経験する現象について心理学的視点から明らかにしようとするものです。本授業では、講義を通じて産業・組織心理学の主要概念について理解すること、理解を通じて働く人々や自らのキャリアをより良いものとする視点を獲得することを目的とする。	

		人体の構造と機能及び疾病	WHOの定義によると、「健康とは身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態」であり、この三側面は密接な相関関係にある。よって人間はさまざまな側面を持ち、ある一つの側面だけを見ていたのでは適切なアセスメントも支援も不可能であり、全人的（ホリスティック）な視点で捉えていくことが重要である。つまり、心理的な支援を行うためにも人体の構造や機能、さらには疾病についての医学的な専門的知識を修得している必要がある。 当科目では人間の身体構造・機能（循環器系、消化器系、脳神経系、呼吸器系、筋骨格器系、免疫内分泌系など）について、心理的な側面とも結びつけながら学ぶことを目的とする。さらに、心理的支援が必要となりやすいがんや難病などの疾病や障害について、また治療法についての理解を深めていく。医療・医学の知識は時代や文化、社会によって変容し続けていくダイナミックなものであり、常に自ら学び続ける姿勢が大切である。	
		精神疾患とその治療	心理学に隣接する「精神医学」の知識は、目の前の対象者一人ひとりを適切に観察し、情報収集、アセスメント、具体的な心理的支援を実践するためには欠かせないものである。 当科目では、代表的な精神疾患（統合失調症、双極性障害、うつ病、不安障害、薬物依存、パーソナリティ障害、発達障害など）や認知症の成因、症状、診断法、治療法の基本的な知識を学ぶことを目的とする。特に、治療法では向精神薬をはじめとする薬物療法の心身への影響についても学び、さらに精神療法、社会療法、予防法や早期介入の方法についても具体的に理解していく。 現在、精神疾患を抱える方々を支える現場はたくさんあり、チーム医療の現場、または教育現場や職場におけるカウンセリング、発達相談、地域社会など、支える対象、支える場や支え方はさまざまある。本人だけでなく家族を含めた具体的な関わり方や、多職種と連携していく重要性なども学んでいく。	
		関係行政論	本授業は、心理職としてさまざまな領域で活動する際に必要となる法・制度の知識を身につけることを目的とする。授業では、公認心理師を取り巻く法・制度をふまえたうえで、主要５領域となる保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野に関係する法・制度の概要を解説する。各領域では、多職種連携のために重要となる関連専門職および関連法について取りあげる。授業は、アクティブラーニングの手法を活用した講義形式で実施する。	
		心理演習（基礎）	心理実習を行うための準備として、心理支援の具体的場面を理解することに必要な知識及び技能の基礎を学ぶことを目的とする。その内容は、次の(ア)から(オ)に沿って必要な知識の修得と、現場の実際的な状況について、場面を想定した役割演技(ロールプレイング）、事例検討から、学ぶ。 (ア）心理に関する支援を要する者等に関する次の(1)から(4)の知識及び技能の修得 （1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援　等 (イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援の計画の作成 (ウ)心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ (エ)多職種連携及び地域連携 (オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解	
			心理実習を行うための準備として、心理支援の具体的場面に参加することに必要な知識及び技能を学ぶことを目的とする。その内容は、次の(ア)から(オ)に沿って必要な知識の活用と、現場の実際的な動きやコミュニケーションについて、場面を想定した役割演技(ロールプレイング）や事例検討を通じて学ぶ。 (ア）心理に関する支援を要する者等に関する次の(1)から(4)の知識及び技能の修得 （1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援　等	

		心理演習（応用）	心理実習を行うための準備として、心理支援の具体的場面に参加することに必要な知識及び技能を学ぶことを目的とする。その内容は、次の(ア)から(オ)に沿って必要な知識の活用と、現場の実際的な動きやコミュニケーションについて、場面を想定した役割演技(ロールプレイング）や事例検討を通じて学ぶ。 (ア）心理に関する支援を要する者等に関する次の(1)から(4)の知識及び技能の修得 （1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援　等 (イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援の計画の作成 (ウ)心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ (エ)多職種連携及び地域連携 (オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解	
		心理実習	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野の施設において、次の(ア)から(ウ)までに掲げる事項について、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受ける(ただし、経過措置として当分の間は、医療機関での実習を必須とし、医療機関以外の施設での実習については適宜行う。また、感染症等の状況によっては大学内での代替演習となる可能性もある)。 (ア)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ (イ)多職種連携及び地域連携 (ウ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解	
		スポーツ心理学	スポーツと個人要因・環境要因、スポーツへの動機づけやコーチングの評価、メンタルトレーニング、チームマネジメントなどについて理解し、スポーツ場面での実践に活かせるようになることを目指します。	
		恋愛心理学	異性関係においても最も関心を持たれている恋愛状況におけるさまざまな心理的問題を科学的な社会心理学的アプローチから解説する。恋愛時における心理と行動や問題を、出会い、発展、親密化といった発展段階にそって検討し、解説する。	
		ストレスマネジメント	ストレスの性質について学び、なぜそれをストレスと捉えるのかを考え、ストレスへの対処方法を学ぶことを目的とする。特に健康心理学や身体化、リラクセイション、マインドフルネスについて学ぶ。実感的に学び理解を深めるために、自身のストレスやそのストレスへの対処について考えること、リラクセイション（呼吸法や筋弛緩法、臨床動作法など）やマインドフルネスなどのワークを行う。	
		心理描写研究	世界的に高く評価されている日本、アメリカ、イギリスの著名な文芸作品の表現上の特徴や 小説・映画などで、人物の心理の有様や推移の描写について解説を加える。取り上げる分野は短編小説、長編小説、詩、SF等でコミック、朗読、アニメーション、映画等とのメディアミックスの観点からも紹介する。	
		相談援助論	地域社会で人々が生活するうえでのさまざまな困難を理解し、そのような生活のしづらさを解決していくうえで、必要な知識、支えの種類、援助方法、技術を習得する。 授業で学んだ相談援助や支援に関わる知識や技術を、リアルな福祉実践の現場で活用していくための土台として位置づける。	
		相談援助方法論	基礎的な援助技術の知識・技術・技能を理解するとともに、想像力・判断力を働かせることのできる応用力の獲得を目指す。相談援助についての包括的な視野を身に着け、相談室のみならず、集団や地域に自分の仕事の対象を広げられる出発点になってほしい。	

家族社会論	現代社会における家族の諸相を学び、家族の変化や課題について概説する。具体的には、社会変動が家族に及ぼす影響、ライフスタイルと家族マネジメントといった個と集団との関連性、家族関係、職業・労働問題、家族とケアなどをテーマとして扱う。本講義を通して、家族を相対化してみる視点を養うために、課題に対する対応策について主体的に考えられる力を獲得することを目指していく。 すなわち、家族問題が生じる社会的背景、社会の変容と家族への影響について家族社会学的視点から捉え直し、家族のあり方について考察する力を習得していくことを講義の目的とする。 到達目標は、①家族の捉え方を理解する。②家族構造について理解する。③家族の問題が起こる背景を考察する。④家族関係や家族の心理に関する諸理論の学びを深める。⑤家族問題を解決するための方法を知る。⑥ネットワークとしての家族や人間関係、地域社会との関わりについて理解する。	
地域福祉の理論と方法	地域福祉の基本的考え方、展開、動向を理解し、主体と対象、主体形勢の概念を理解する。また地域福祉推進の福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。	
ジェンダー論	国連サミットで採択されたSDGsには、「5.ジェンダー平等を実現しよう」が掲げられている。これを達成するための目標や実現のための方法も示されている。 ジェンダーとは、社会的・文化的につくられる性別をさす。ジェンダーによる男女差別をなくして、安心して生活できる社会にするため、ジェンダーの視点から多角的な考えがあることを学ぶ。	
児童に対する支援	児童を支援するために必要となる理念及び基礎的な理論を学ぶとともに、児童に対するアプローチ方法について理解を深める。さらに、児童の発達を理解するため、心身の発育・発達、人格の基礎が形成される子ども期の資質や特性を学ぶ。具体的には、子どもたちの健やかな育ちを保障するために必要とされる視点や乳幼児期から青年中期までの発達過程での特徴や課題、各段階における適切な援助や支援のあり方を学ぶことを目的とする。 講義では、青年期以前の児童にとっての遊びが生涯にわたって生きる力の基礎を培うことを理解し、子どもが主体的に活動するための環境設定や目指すべき支援のあり方についても触れていきたい。 到達目標は、①児童の発達を捉える観点について理解する。②児童の発達の概要について理解する。③生涯発達の概要について理解する。④児童の発達に応じた援助や支援のあり方について理解する。⑤児童の権利や遊びの意義について理解する。	
家庭に対する支援	高齢者、障害者・児、乳幼児など、ケアを必要とする人々と生活を共にする家庭に対する社会的支援の実際について学んでいく。具体的には、現代家族の抱える問題や課題、家庭支援の現況把握と支援の方法論を学び、知識や技術を習得することを講義の目的とする。講義前半では、家族・家庭の定義、家族機能、ケアの社会化と家庭の役割について学び、現代社会における家庭支援の意義を理解する。その上で、社会保障制度や政策の動向を理解し、家庭に対する支援のあり方を考察していく。講義後半では、クライエントとその家庭に向き合う心構えや支援法を習得するため、臨床事例をもとにグループ討議などを行い、実践的な学びへとつなげていく。 到達目標は、①多様な家庭環境について理解し、現代家族に対する支援のあり方を考察する。②福祉をめぐる諸制度を理解する。③家庭への対応に必要な知識や方法論、留意点を学び、専門職・支援者としての基本姿勢を習得する。	

		高齢者に対する支援	高齢期は人生のターミナルステージであり、生き抜いていく中で誰もが当事者となるのが高齢者である。このことから、高齢者福祉における諸問題を自らの問題としてとらえ、学ぶことが求められる。本講義では、高齢者の特性のほか、高齢者福祉施策の歴史的展開や現在の高齢者や家族を取り巻く現状や課題を概観したうえで、高齢期をよりよく生きていくための高齢者福祉制度や福祉サービスについて理解を深めることを目的とする。	
		障害者に対する支援	「障害者・障害児心理学」で学んだ障害に対する基礎的知識を基盤としながら、障害のある人のリアルな体験や生活を理解し、日常生活への具体的な支援の方法を学ぶことを目的とする。適切な支援を実践するためには、「障害」と「障害者」をどのように捉えていくのか、生活のしづらさの実際にどこまで近づくことができるのか、人間の価値や幸せはどこにあるのか、障害者に対する差別や偏見のしくみなどを理解するために、さまざまな思想や理論も学んでいく必要がある。自ら感じ考えていくことが大切となるため、講義を中心とした授業の中にアクティブラーニングの手法を取り入れ、事例検討やグループワーク、映像視聴、演習なども取り入れていく。 ミクロな視点とマクロな視点が求められるため、障害者福祉の国際的動向や障害者福祉制度の流れも学んでいき、これからの障害者支援のあり方について自ら考えられることを目指していく。	
		栄養学	栄養とは、体外から必要な物質を取り込み、それを消化・吸収、代謝、利用し、老廃物の排泄へ続く一連の営みである。栄養学は、こうした人間と食物の相互作用を明らかにする学問である。ここでは基本的な栄養学の知識を修得することを目的とする。	
		健康と栄養	日常の食事を、運動と関連づけて見直し、栄養素レベルの理解の上に適切な食品の選択が成り立つことを理解する。また、アスリートの栄養指導事例から参考になる要素を抽出し議論することにより、運動時の身体活動量と代謝の変化に応じた栄養摂取について考案し、提案できるように指導する。	
		スポーツ生理学	生理学の基礎知識をもとに、スポーツ生理学の知識を習得し、スポーツや身体運動、トレーニングをスポーツの現場や日常生活で応用的に活用できる力を身に付ける。 スポーツや身体運動、トレーニングによる刺激や負荷に呼応する、呼吸循環、代謝、内分泌など、身体の生理的機能の変化などについて学習する。	
		健康と運動	運動を行うことによる、具体的な健康増進効果について学ぶ。また、これらの知識をもとに、他者に対しても健康で豊かな生活を実現、生活の質の向上に向けた。指導助言ができる能力を身につける。 運動を行うことによる、生活習慣病予防やストレス耐性向上、社会的・心理的効果など具体的な健康増進効果について学ぶ。さらに、運動の実践事例などを通じて、実効性のある運動の内容や方法について学ぶ。	
		子どもの身体運動と健康	身体運動がもたらす、子どもの健全な発達・発育など、心身への健康効果を理解し、子どもの身体運動を援助するための実践的な手法を学ぶことにより、子どもや保護者等に指導助言ができる能力を身につける。 「体力・運動能力の向上」、「健康的な体の育成」、「意欲的な心の育成」、「社会適応力の発達」、「認知的能力の発達」等、身体運動がもたらす子どもにとってのベネフィットを理解する。さらに、「安全に対する配慮」、「一人一人の発達に応じた援助」「子どもの運動に適した環境の構成」など、子どもの身体運動を援助するための実践的手法を学ぶ。	

		高齢者の身体運動と健康	身体運動がもたらす高齢者の健康増進効果を理解し、さらに、高齢者の身体運動を援助するための実践的な手法を学ぶことにより、高齢者や家族等に指導助言ができる能力を身につける。 高齢期特有の「サルコペニア」「フレイル」といった身体状況の変化と健康寿命延伸を目的とした身体運動について、また、高齢期における精神的、社会的健康など総合的な健康と運動の効果について学ぶ。さらに、身体運動の実践に向けた援助の方法や、身体運動を通しての高齢者の社会参加への援助など、高齢者の健康増進に向けた身体運動の実践的手法を学ぶ。	
		スポーツビジネス	今やスポーツは産業として独自の市場を形成し、マスメディアはスポーツにおけるビジネスチャンスを日々拡大し続けている。さらに今日では、「健康」ブームとの兼ね合いからスポーツを積極的にライフスタイルのなかに取り入れる人も増えてきている。健康的なライフスタイルや生活の豊かさを提供するスポーツの国家的施策が展開される現状を踏まえながら、多角的にスポーツビジネスの意味と課題を探る。	
		教育哲学	教育とは何であり、いかにあるべきか、という教育の本質・理念を理解し、教育学的見方を培うことを目的とする。それは、教育を人間から、人間を教育から考察し、教育と人間の諸相の全体を包括的に捉えようとする試みである。また現代教育を歴史的に捉え、教育問題の思想史的考察を行う。そのための方法論として「哲学的考察」に着目し、その習得を目指す。私たちの感情や身のまわりの出来事について広く、深く、かつ自分の問題として考えようとする態度を養うことをまずは目指すものである。	
		教育社会学	教育社会学において重要な考え方である「社会化（社会の成員性の獲得）」について具体的に学んだのち、社会と家庭教育の関係、社会と学校（特に幼稚園）教育の関係を考える。授業で学んだことを踏まえて、あなたの経験やあなたの考えを、リアクションペーパーに書いたり、クラスメイトと話し合ったりする機会を設ける。	
		教育心理学	教育心理学は、心理学で得られた知見を、主に子どもの教育に活用することを目的とした学問である。本講義ではトピックスとして、子どもの認知的発達、記憶・知能、学習理論、動機づけ、教育評価、学級集団、パーソナリティをあげ、各項目で得られている知見および著名な理論について解説を行い、これらの知見が教育現場の中でどのように生かされているのかについて学ぶ．また近年、学校教育で課題となっている特別支援教育（発達障害児への支援と指導）についても解説を行い、子どもの教育における課題と教育心理学の活用について理解を深める。	
		日本の教育事情	近年の社会変化及び子どもや若者の変化とそれらが及ぼす影響等、多様化する日本の教育事情について、諸外国の教育事情と対比しながら、その課題と心理的支援の手法について考察する。 特に、こどもを取り巻く課題、教職員を取り巻く課題、社会の進化に伴う課題を中心に考察をする。	
		こどもの生活環境	少子化、核家族化、都市化、情報化、国際化など日本の経済社会の急激な変化等、こどもを取り巻く環境が大きく変化している現代について、人間関係、社会、家庭、食生活、家族以外の集団生活、情報社会、健康づくり、過保護・無関心、モラル低下、貧困などの具体的な事象を題材として、グループワークを中心に、検討、発表、討議することにより、これらの事象が子どもへおよぼす影響について考察する。	

		こどもの権利擁護	学校におけるいじめや体罰問題、実親などによる児童虐待等が、に社会問題化している。また、犯罪の低年齢化・短絡化の中で加害者としての未成年者も注目されている。子どもたちをめぐるこのような諸問題を、「子どもの人権」をキーワードに、教育の現場と関連付けながら学修する。学校教育においてなぜ人権教育が必要なのかを具体的に説明できるようになることを目指す。	
		教育相談	心理学の専門的知識に基づいた対人支援技術として、教育相談の内容や役割、理論や実際の技術について紹介する。具体的には、ロジャーズの来談者中心療法における考え方や、深層心理学における無意識の捉え方、ピアヘルピングの技術などを取り上げる。さらにロールプレイや演習を通して、家族や友人、同僚など、自分たちの仲間を支援するための実践的な能力や技術を向上させる。また、教育現場を中心に他領域にわたる事例等を紹介していく。	
	演習科目	人間科学専門演習Ⅰ	初年次セミナーに引き続き、大学での学び方について学ぶ。また、調査等の成果、それらについての自分の考え・主張を明らかにし、それらを含めたレポートの書き方を学ぶ。今後の学習において必要となる情報の収集・整理や文章の読解方法等についても学ぶ。	
		人間科学専門演習Ⅱ	専門分野における基礎的な研究能力の養成と研究意識の涵養を図ることを目的として、講義科目において修得した知識の有効性について、現地調査を中心とする調査活動を通して体験的に学習することにより、実践的な調査方法や分析手法を身に付けるとともに、調査結果に基づく文献購読や資料分析、発表討論などを課すことにより、研究遂行能力や研究活動能力の向上と実践的な課題解決能力を修得する。	
		人間科学専門演習Ⅲ	専門分野における基礎的な研究能力の養成と研究意識の涵養を図ることを目的として、講義科目において修得した知識の有効性について、現地調査を中心とする調査活動を通して体験的に学習することにより、実践的な調査方法や分析手法を身に付けるとともに、調査結果に基づく文献購読や資料分析、発表討論などを課すことにより、研究遂行能力や研究活動能力の向上と実践的な課題解決能力を修得する。	
		人間科学専門演習Ⅳ	３年次より２年間を通して一貫した演習形式の指導体制を取るものであり、自己の研究課題の設定に始まり、研究調査、討論、発表等を繰り返しながら、課題研究としての研究成果の発表へと結び付けていくことを目的として、専門教育で獲得した知識や技能等を総合的に活用することについて学ぶとともに、各自の研究課題に則した研究計画を設定し、研究課題に関する成果発表へと結び付けていくための指導を行う。	
		人間科学専門演習Ⅴ	３年次より２年間を通して一貫した演習形式の指導体制を取るものであり、自己の研究課題の設定に始まり、研究調査、討論、発表等を繰り返しながら、課題研究としての研究成果の発表へと結び付けていくことを目的として、専門教育で獲得した知識や技能等を総合的に活用することについて学ぶとともに、各自の研究課題に則した研究計画を設定し、研究課題に関する成果発表へと結び付けていくための指導を行う。	
		人間科学専門演習Ⅵ	３年次より２年間を通して一貫した演習形式の指導体制を取るものであり、自己の研究課題の設定に始まり、研究調査、討論、発表等を繰り返しながら、課題研究としての研究成果の発表へと結び付けていくことを目的として、専門教育で獲得した知識や技能等を総合的に活用することについて学ぶとともに、各自の研究課題に則した研究計画に基づく成果発表のための指導を行う。	

		人間科学専門演習Ⅶ	３年次より２年間を通して一貫した演習形式の指導体制を取るものであり、自己の研究課題の設定に始まり、研究調査、討論、発表等を繰り返しながら、課題研究としての研究成果の発表へと結び付けていくことを目的として、専門教育で獲得した知識や技能等を総合的に活用することについて学ぶとともに、各自の研究課題に則した研究計画に基づく成果発表のための指導を行う。	
	実践科目	フィールドワークⅠ（事前事後学習を含む）	フィールドワークⅠは、履修学生が自由な体験学習の設定し実施する授業である。学生個々の設定はそれぞれ異なるが、教員による実施前の事前指導、実施後の事後指導を行い、最終的に履修者全員のフィールドワーク報告会を実施する。 フィールドワークⅠは国内限定とする ・フィールドワークの課題を明確化する ・フィールドワーク計画書の作成 ・課題に取り組む方法の検討 ・フィールドワークを実施する場所を選定し研究課題について知見を深める。 ・研究計画を基に課題に取り組む。 ・活動後「フィールドワーク報告書」を作成。 ・フィールドワーク報告書に基づいた成果発表を行う。	演習　60時間 実習　45時間
		フィールドワークⅡ（事前事後学習を含む）	フィールドワークⅠに引き続き、対象地域を国内及び海外とする。 学習内容は、フィールドワークⅠで体験学習した経験を基に、研究課題を深化させ、研究活動を充実し高度化を図る。 ・フィールドワークの課題を明確化する ・フィールドワーク計画書の作成 ・課題に取り組む方法の検討 ・フィールドワークを実施する場所を選定し研究課題について知見を深める。 ・研究計画を基に課題に取り組む。 ・活動後「フィールドワーク報告書」を作成。 ・フィールドワーク報告書に基づいた成果発表を行う。	演習　60時間 実習　45時間

学校法人　大乗淑徳学園　設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
淑徳大学				淑徳大学				
総合福祉学部				総合福祉学部				
社会福祉学科	200	―	800	社会福祉学科	200	―	800	
教育福祉学科	150	―	600	教育福祉学科	150	―	600	
実践心理学科	100	―	400	実践心理学科	100	―	400	
ｺﾐｭﾆﾃｨ政策学部				ｺﾐｭﾆﾃｨ政策学部				
ｺﾐｭﾆﾃｨ政策学科	95	―	380	ｺﾐｭﾆﾃｨ政策学科	95	―	380	
看護栄養学部				看護栄養学部				
看護学科	100	―	400	看護学科	100	―	400	
栄養学科	80	―	320	栄養学科	80	―	320	
経営学部	埼玉県入間郡三芳町大字藤久保字南新埜1150番地１			経営学部				所在地の変更 特定地域外から特定地域内へ所在地の変更 東京都板橋区前野町6丁目36番4号
経営学科	110	―	440	経営学科	150	―	600	定員変更　(40)
観光経営学科	90	―	360	観光経営学科	90	―	360	
教育学部				教育学部				
こども教育学科	150	―	600	こども教育学科	150	―	600	
人文学部				人文学部				
歴史学科	60	―	240	歴史学科	60	―	240	
表現学科	85	―	340	表現学科	85	―	340	
				人間科学科	100	―	400	学科の設置（届出）
				地域創生学部				学部の設置（届出）
				地域創生学科	95	―	380	
計	1220	―	4880	計	1455	―	5820	
淑徳大学大学院				淑徳大学大学院				
社会福祉研究科				社会福祉研究科				
社会福祉学専攻（M）	5	―	10	社会福祉学専攻（M）	5	―	10	
社会福祉学専攻（D）	3	―	9	社会福祉学専攻（D）	3	―	9	
心理学専攻(M)	15	―	30	心理学専攻(M)	15	―	30	
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻（M）	5	―	10	看護学専攻（M）	5	―	10	
計	28	―	59	計	28	―	59	
淑徳大学短期大学部				淑徳大学短期大学部				
健康福祉学科				健康福祉学科				
社会福祉専攻	50	―	100	社会福祉専攻	0	―	0	令和5年4月学生募集停止
介護福祉専攻	40	―	80	介護福祉専攻	0	―	0	令和5年4月学生募集停止
こども学科	250	―	500	こども学科	0	―	0	令和5年4月学生募集停止
計	340	―	680	計	0	―	0	